

部会長あいさつ

一年間を振り返って

群馬県高等学校教育研究会音楽部会
部会長 小松 祐一
(群馬県立吉井高等学校 校長)

令和2年度計画していた高教研音楽部会の事業が、新型コロナウイルス感染症対策のために、経年とは異なる対応を求められる中、荻野副部会長を始めとする役員各位はもとより会員お一人お一人のご尽力、ご協力により、実現可能な限りにおいて終えられたことに、心から感謝申し上げます。

昨年度末から未曾有の災禍というべき、新型コロナウイルスの感染症拡大により、学校行事さえも容易に実施できない状況下で、音楽部会においても団体演奏会、個人演奏会が中止となってしまいました。私は、専門が商業のため、教諭時代に資格取得を学びの動機づけの一助として指導を行ってきました。資格取得は、生徒にとって学習過程の到達度を図る指標といえます。また、ビジネスの実践力の証明であり、進路選択においても有効となりえます。生徒にとって一つの資格取得が達成感を育むとともに自信となり、より高度な資格へ挑む意識が培われます。そして、卒業後も取得した資格を礎とし、ビジネス活動を展開している者も少なくありません。吹奏楽も日々の弛まぬ鍛錬が、進路実現にも繋がり、生涯の学びの継続に発展するものと思います。

音楽を学ぶ生徒にとっても演奏会、コンクール等は、厳しい鍛錬の成果を発表する場であり、大舞台の日常と異なる環境での演奏は尊い経験となるものでしょう。このような機会を提供できなかったことを大変残念に思います。社会情勢が好転し、次年度の実施を切望しやみません。今後も個の技術や表現力を磨き、個人でも団体でも輝く音を目標に陶冶していただきたいと思います。

定期総会と夏季研究会は、吉井高校を会場と同日に実施しました。多くの教科部会で、事務局員が全て準備し、開会を迎える運びとなっているかと思えます。しかし、音楽部会においては、当日の朝から係分担ごとに協力し、準備をしてくださる様子を拝見し、優れた組織力と機動力に驚嘆させられました。また、定期総会では、建設的な意見が多く、活発な協議がなされました。これもほとんどの学校が、音楽の教科担当者が1名という人員配置だからこそその横の連携の強さかと思いました。部会員皆さんが音楽の指導者として、矜持を抱き勤務校の中核として学校行事、式典等を取り仕切っている様子が窺えました。夏季研究会では、「新しい学びはこうしてつくる！～新学習指導要領の実施に向けて～」と題して、群馬県教育委員会高校教育課 指導主事 島田聡様より講義をしていただきました。教科の「見方・考え方」、生徒に学びの機会をつくるための提案等、他教科の視点からも授業に直ちに活かせる内容でした。商業は、社会での実学であり、生徒自身が学びによる成長を実感できる教科でもあります。音楽はさらに生涯学習として学び続けることができる科目であり、羨ましくも思います。

授業研究会は、予めビデオ撮影しておいた安中総合学園高等学校の富岡恵美教諭による授業を視聴し、授業研究を行う予定でしたが、延期となってしまいました。ビデオ視聴の利点は、研究授業時の授業のみならず、その前後の授業も見ることができ、生徒の学びの変容がわかることでもあり、実施を待ち遠しく思います。生徒が、主体的に生き活きと活動し、一人ひとりが主役のごとく楽しみながら学びを深める姿を期待しております。

結びに、高教研音楽部会の一層の発展とお一人お一人のご活躍をお祈りし、併せて今年1年間にわたり賜りましたご厚情に深く感謝するとともに、お礼申し上げます。